

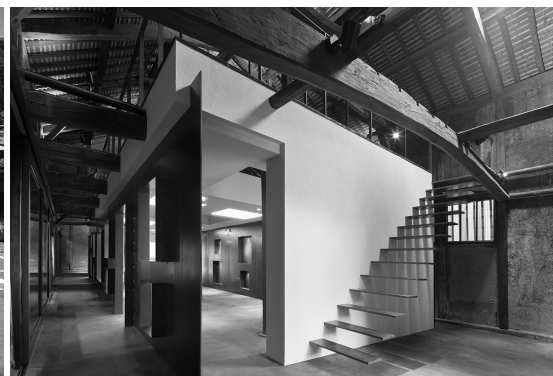
【特集：第17回建築祭】

ミリューからマテリアルへ

yHa architects / 佐賀大学准教授 平瀬有人



御嶽山ビジターセンター やまテラス王滝(2022) © Takeshi YAMAGISHI



富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー(2014) © Techni Staff

その場所の〈ミリュー〉(milieu/社会的・文化的環境)を読み解き、風景に対してどのような形式・質量・関係を持つ環境を形成するのか、という点に興味を持って設計活動に携わっている。今回 JIA 長野県クラブによる第 17 回建築祭〈ひと、まち、建築 2023〉文化講演会にお招きいただき、「ミリューからマテリアルへ」と題して学生時代に考えていたことから現在の設計活動のテーマに至るまでの系譜をご紹介させていただいたので、本稿ではその概要をお伝えしたい。学生時代は自然環境や厳冬期の積雪から造形が〈他律的〉に立ちあらわれる山の建築に興味があり、しばらく吉阪隆正先生の設計された涸沢ヒュッテなどの山岳建築の研究に取り組んでいた。一方、いわゆる「スイス・ボックス」と言われるようなスイス現代建築にも興味を持っていたのも同時期である。1990 年代のその頃のスイス都市部の現代建築は、単一の素材(マテリアル)で覆われた四角い箱型の建築がプロポーション・開口部のデザイン・地面への置き方・内外の仕上げ方といったボリュームのつくり方で敷地や周辺環境との関係を浮かびあがらせ、建築を通した世界の多様な観察の仕方を定義するような〈自律的〉な存在であった。

そうした〈自律的^自他律的^他〉な建築のあり方を実現すべく、主に 4 つの研究テーマに沿ってプロジェクトを進めている。「マルチ・フレーミング研究」とは、複数のフレーミングを重ね合わせた絵画的手法によって、1 つの空間に複数の視点(時空間)が織り込まれた空間の可能性を考えるもので、〈代々木の住宅〉(2010)・〈富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー〉(2014)などで実現している。〈富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー〉や〈TETUSIN DESIGN

RE-USE OFFICE〉(2021)などは、歴史的建造物を移築や用途変更して保存・利活用を両立する手法である「アダプティブ・リユース研究」に関連したものである。ランドスケープと建築が連続したかたち(地質学的時間と現代建築の時差を調整)となるような地勢的建築のありかたを探る「ランドフォーム・アーキテクチャー研究」は、〈五ヶ山クロス ベース〉(2019)や〈御嶽山ビジターセンター〉(2022)として実現している。〈御嶽山ビジターセンター〉は、山岳建築研究から展開した季節や時間に応じて変化する動的な建築としての「ライト・インフラストラクチャー研究」とも連動したプロジェクトである。プロジェクトは研究テーマ間でそれぞれ重なり合っており、いずれも幅広い意味での時間概念を拡張するもの、という点で共通項があると考えている。

2020 年に長野県・木曾町主催のプロポーザルで選定いただいた〈御嶽山ビジターセンター〉をきっかけに、学生時代さんざん登山に訪れていた長野エリアに 2 年間往来の機会をいただき、改めて長野の環境の素晴らしさを再認識することが出来た。長野には数多くのワイナリーがあり、テロワール(生育環境)によってワインの味がその土地固有の性格となるように、建築もその場所固有の環境形成という点で共通項がある。ぜひ機会を見つけて、地域の人びとが集うワイナリー建築を長野で実現したい。



第17回建築祭を終えて

事業委員長 小川原吉宏

第17回建築祭を無事終えることが出来ました。会員、協会の皆様には、応援頂き誠に有難うございました。貴重なご講演、卒業設計コンクールの審査委員長を務めていただいた平瀬有人先生、審査員の JIA 関東甲信越支部渡邊大海支部長、JIA 新潟地域会小松康之副代表、JIA 長野地域会山田健一郎副代表、長時間にわたる審査、感謝申し上げます。松本市美術館、担当者の方々には例年以上にご協力いただき感謝申し上げます。

本年度の開催は、改装を終えた松本市美術館に戻り、新型コロナウイルス対策に運営まで影響されない状況下であったため、通常の建築祭の段取りで進められスムーズな展開となりました。

今回学生の応募作品は、近年最多となりました。第一線で活躍する著名な建築家と対面し、自身の作品を評価して頂ける機会が、各校のカリキュラムの一環となり、建築祭卒業設計コンクールが定着してきたように思います。十数年建築祭に携わり、特に高校生の表現力向上には目を

見張るものがあります。発想を表現する手法は、県内建築を志す学生が一同に会す場による刺激や学びの機会から養われ、この卒業設計コンクールがその一翼を担っているのではないかと、一年間の労を励みに転換しているようです。

最後に事業委員長一年目という大変不慣れな状況下、事業委員、特に副委員長の皆様には大変なご苦勞をおかけしました。又、当日体調不良という私自身の不徳にご対応頂いた轟副委員長、高橋委員、心より感謝いたします。事務局佐藤さんの綿密でスーパーなご対応、一年を通じて唯一無二の存在を身近で体感させていただきました。本当に有難うございました。

来年度も事業委員会をよろしくお願いたします。



専門学校の部/プレゼン

長野県学生卒業設計コンクール 受賞者の声

【大学生の部 金賞】

信州大学工学部建築学科
石原 大雅



大学の部受賞者/前列中央が石原さん

この度は長野県卒業設計コンクールにおいて金賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。コロナ禍という状況の中で、対面での開催を実現してくださり運営に関わっていただいた方並びにご指導ご鞭撻いただいた審査員の方々には心より感謝申し上げます。

卒業設計では、信濃町に現存する牛舎を活用した交流拠点施設を設計しました。町の産業の一部として大きな役割を果たしてきた酪農。その産業遺産として残る「ギャンプル牛舎」を町の資源として、町と関わるきっかけとして再編することを考えました。さらにギャンプル牛舎の意匠が未来に引き継がれることを目指し、建て替える給食センターに意匠を応用しました。

本制作では、自分の考えを形にして表現し、人に伝えることの難しさを実感しました。今回いただいた意見をもとにブラッシュアップを続けるとともに、これからの自分の設計に活かしていけるように努めたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

【専門学校の部 金賞】

上田情報ビジネス専門学校建築インテリア科
保倉然・丸山優太



専門学校の部受賞者/前列左3番目が丸山さん、4番目が保倉さん

この度は、長野県卒業設計コンクールにおいて金賞を受賞できたことを大変うれしく思います。まず対面での開催を実施して下さった運営の皆様へ感謝申し上げます。プロの建築家の皆様からご指導頂ける貴重な機会を設けてくださり多くの学びを得ることができました。

卒業設計では、「生きる喜び~子供と地域をつなぐ未来への感興~」と名付けた児童施設を提案しました。日本には4万5000人の子供たちが様々な事情により親と暮らすことができていません。そのような子供たちが生きる知恵を学び、安心して今後の人生を過ごしてもらえるような建築を目指しました。本製作では、子供たちが楽しく過ごせる空間づくり、それをどのような形で表現するのかといった点に悩みました。最終的には納得のいく作品を制作出来て良かったです。私たちは今後も建築を通して自分ができること、伝えられることを考えながら励んでいきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

大学の部

専門学校の部

高校の部

金賞	石原 大雅 (信州大学) 牛舎が繋ぐ地域の和 - 信濃町振興計画 -
銀賞	田畑 奎人 (信州大学) 「歩行景」の再編による地域都市再生 小諸市街地におけるウォークアビリティ向上に向けたプロムナード・フォーリー的设计
銅賞	中尾 啓太 (信州大学) ヨシと共に育つ幼稚園
奨励賞	濱田 紀之 (信州大学) 用水と人のあいだに 善光寺平用水沿路再編による暮らしの提案
奨励賞	柳町 一輝 (信州大学) 「地形」と「建築」の差異に住む

金賞	保倉 然/丸山 優太 (上田情報ビジネス専門学校) 生きる喜び ~子供と地域をつなぐ未来への感興~
銀賞	鮎澤 友紀 (上田情報ビジネス専門学校) 紡ぐ - 上田自由大学の遺志を、学びを、歴史を。 -
銅賞	櫻井 玄 (上田情報ビジネス専門学校) 実りの展望
奨励賞	高澤 紅乃実/村田 侑菜 (上田情報ビジネス専門学校) まなび舎 ~大地が繋ぐ物語~
奨励賞	塚原 治美 (長野工業高等専門学校) 学生の拠点

金賞	小林 要 (長野県飯田 OIDE 長姫高等学校) One with nature
銀賞	茂木 鶴登 (長野県上田千曲高等学校) 宿場の搦手
銅賞	肥後 克哉 (長野県飯田 OIDE 長姫高等学校) IIDA Central Station
奨励賞	香山 咲綾 (長野県飯田 OIDE 長姫高等学校) Time Share
奨励賞	宮内 葵 (長野県飯田 OIDE 長姫高等学校) 丘の上ミュージアム ~伝統を繋ぐ地域博物館~

第1回 JIA 長野建築賞 2022 表彰式のご案内

4月21日に行われる総会において、第1回 JIA 長野建築賞 2022 の表彰式が行われます。審査員の内藤廣氏による講評、表彰状授与の後、内藤氏を囲んで座談会を行います。皆様ご参集頂きますよう、宜しくお願いします。

お知らせ

3月15日(水)に「信州の建築家とつくる家 第18集」発刊しました。

今後の行事予定

- 4月4日(火)・・・監査
- 4月5日(水)・・・幹事会(第5回)
- 4月21日(金)・・・2023年度通常総会(ホテル犀北館にて)

編集後記

クラブ内編集となって2号目です。特集の建築祭について原稿をいただきました。依頼した皆様には多忙な年度末に提供いただき感謝しています。編集ではコンマ1mmの調整をしながらレイアウトについての模索が続いております。

広報委員会副委員長 鈴木敏之



編集人/鈴木敏之 発行人/林 隆
発行所/JIA 長野県クラブ
長野県南長野妻科 426-1 長野県建築士会会館内
TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
<https://jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せください。